

みなと再生プロジェクト

# 「いまばり海の駅」未来の模索



## ☆「いまばり海の駅」の未来の模索☆

《「交通」の港から「交流」のみなとへ》のコンセプトで進めているみなと再生プロジェクトにおいて、海からの交流拠点となるのが『いまばり海の駅』です。

平成 24 年度に《いまばり海の駅の事業化を目指して》の学生ワークショップを開催し、浮き彫りになった視点は 1) 海の駅にほしい基本機能 2) 交流をうむ仕組み (しかけ) 3) 海からの来場者のための仕組み (しかけ) 4) 海の駅で展開可能な事業でした。

平成 24 年度の視点を受け、より具体的な事業提案として①具体性のあるハード整備②ヨットマンに来ていただける情報の整備の 2 点に集中し提案することとしました。

## みなと部会の提案する “しまなみ浪漫航路 “

海の駅へひとを呼ぶということは、“今治港に船を呼ぶ”ということです。ヨットマンの航海を簡単で安全なものにする必要があります。そのために必要な事業計画として、以下の三点を提案致します。

### 1. スマートフォンで安全航海

パーソナル情報端末の発展により、沿岸であれば、スマホひとつで安全航海ができる時代が到来しました。直感的でわかりやすく、面倒な計算も不要な『航海アプリ』の普及を推進します。

### 2. マリンガイドブックの発行 (簡易海図として利用できる)

欧米で一般的な、観光案内と簡易海図がひとつになったパーフェクトガイドを発行します。

海では航海ガイドとして、陸では観光ガイドとして 1 冊は欲しくなるガイドブックを目指します。

### 3. 海の駅に『旗旒信号所』を設置する

海の駅の目立つ場所に旗竿を立てて、国際信号旗による信号を行います。

ヨットと商船の秩序を守り、陸と海のどちらからも見える視覚的シンボルになります。

この三点を、具体的事業として推進します。



## ■ 内容

- ・ 日 時： 8月23日(金)～25日(日) 2泊3日
- ・ 場 所： 愛媛県今治市 港湾ビル
- ・ 主 催： 今治中心市街地再生協議会 みなと部会
- ・ 協 力： 今治ヨット倶楽部
- ・ 講 師： Studio-L 神庭 慎次

## ■ テーマ

### 1) しまなみ浪漫航路の観光情報調査

『海』目線とは何か？を島々に点在する施設を回りキーワードを抽出

- 伯方ふるさと歴史公園（伯方）
- 尾道海の駅（尾道）
- 水軍博物館（宮窪）

### 2) 海の駅のハード運営を考える

ヨット所有者・関係者の方に集ってもらい、実現可能な、海の駅のハード・運営について話し合いを行う。

## ■ スケジュール

### < 1日目 >

- 10:00-10:30 開会式 オリエンテーション
- 10:30-17:30 調査（伯方・尾道・宮窪）
- 17:20-18:20 ワーク1 意見交換・調査方針決定
- 18:30 懇親会

### < 2日目 >

- 10:00-12:00 昨日の調査まとめ
- 13:00-16:00 海の駅ハードについて話し合い
- 16:00-19:00 ワーク2

### < 3日目 >

- 10:00-16:00 案の作成・再度調査
- 16:00-17:00 発表
- 17:00-17:30 閉会式

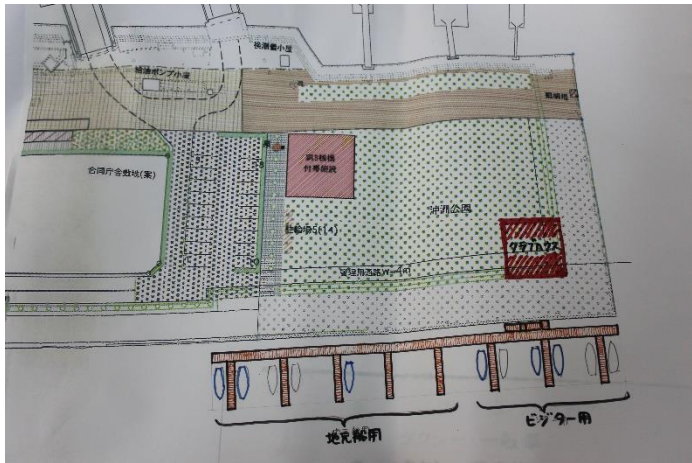
## ■ 参加者

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 阿部美佐子 | 松山大学人文学部社会学科3年生    |
| 白石 雄大 | 信州大学/修士2年          |
| 菅 直行  | 千葉大学工学部建築学科4年生     |
| 林 翔太  | 河原学園 インテリア・建築デザイン科 |
| 宇高 雅敏 | ヨット所有者             |
| 森 賢一郎 | ヨット所有者             |





★作成した案



「いまばり海の駅」を内港に

＝現状の問題＝

- ・電気の供給設備がない。
- ・波が悪い。
- ・予約内容を優先し、緊急時の変更が不可
- \*直島は「アート島の島」を売りにしているが、ヨットに関しては閉鎖的。

＝方向性＝

- ヨットハーバーと海の駅が共存  
(地元の船10艇、ビジター6艇停泊できる)
- 水・電気・油の補給ができ、シャワー・トイレがある。
- クラブハウスの併設。レストラン等も充実。
- レンタサイクル・地域情報インフォメーション
- 今の海の駅は「波が悪い」⇒内港がベスト

＝効果＝

- ヨットが停泊している景観は人を引き付ける  
(カップルが水際を歩きだす。)
- 停泊しているヨット自体がにぎわいのコンテンツ  
(沖州広場と一体化した利用が可能)
- 海の駅に一番必要なコンテンツは“おもてなし”
- しまなみ海道の航路は世界的に有名

＝運営＝

- ・ハーバースターを置き、全体の管理運営を市民団体に委託する。  
(基本的にボランティアでルール等も創る。)
- ・地元の利用者からも停船料を徴収する。
- ・地元の利用者とビジターが交流できるクラブハウスとする。
- ・受け入れの充実が一番の売り。  
クラブハウスの管理と併せて、レンタサイクルの管理運営、観光情報を発信する。

## ヨットマンに必要な情報を網羅したしまなみ浪漫航路提案

ワグネルツアー1日泊、空想遊覧船の船内、船外を満喫しながら、船内には、お風呂と食事のサービス、船外には、島の自然の眺めを堪能しました。ワグネルツアー2日泊、島の自然の眺めを満喫しながら、船内には、お風呂と食事のサービス、船外には、島の自然の眺めを堪能しました。

### 1次情報

ヨットマンに必要な情報を網羅したしまなみ浪漫航路提案

### 2次情報

ヨットマンの中には船に自転車を載せている人も多くいるらしい。またレンタルサイクルに乗ることによって、行動範囲も広がるので地元の食や、地域の人との交流を通して、今治のライフスタイルを肌で感じてまた来たくなるような取り組み。

### 調査方法

ヨットマンの調査方法

### MAP

### 海の駅

海の駅

## 1次情報

JA 結智今治伯彩伯方面売所

マリンオアシス伯方

多々羅温泉

まず今回の調査で、車からの調査では海目線にはなりきれず、どうしても観光施設やグルメ情報で話を進めてしまっていた経緯がある。ヨットマンの目的大前提として「船に乗る」事があり、まずヨットを停められるのかどうか、お風呂に入りたい、食事を取りたいなどの1次情報をヨットマンたちが求めているのわかった。

ヨットマンの求めている情報を提示している事によって、港へも入って来やすいと思う。

## 2次情報

案内人

観光

温泉

ヨットマンの中には船に自転車を載せている人も多くいるらしい。またレンタルサイクルに乗ることによって、行動範囲も広がるので地元の食や、地域の人との交流を通して、今治のライフスタイルを肌で感じてまた来たくなるような取り組み。

- ヨットマンの求める情報
- 一次情報 ヨットの停泊・風呂・食事
- 二次情報 観光（今治のライフスタイルを感じる）
- ヨットマンの気持ちで調査
- ※海と陸は考え方が異なる
- ・今治～宮浦～尾道間を実際に航行し、調査
- ・海上からの調査だけではなく、ヨットに自転車を搭載し、陸上の調査も行う。
- ・港からの距離を設定して調査。
- ・事前にアンケートも実施しておく、さらに効果的

- ◆調査内容
- ・一次情報、二次情報
- ・ライフスタイル
- ・オモシロ案内人さがし
  - 図鑑をつくる（交流を促進する）
- ◆将来的に
- ・初めは数島のみに限られるが、数を増やしていく
- ・停泊できるポイントをつなぎ、瀬戸内88箇所を決定



実際にヨットマンの方と接してみて・・・

## 瀬戸内国際ヨットラリー2013 9月30日(月) 宮浦港



海外から4カ国(アメリカ・イギリス・ニュージーランド・オーストラリア)

24名を含む50名あまりの方がヨットラリーを実施。

10艇の船が宮浦の海の駅に到着しました。



○大きな大会だが、地域の人には知らない。歓迎感なし。

○到着して参加者はまずお風呂

○海外から来た方と一緒に大山祇神社まで行ったが、宝物館(入館料1000円)には入らなかった  
リタイアして家も売って船で生活している人もいる。

事前に情報を与えて『みたい』という気持ちに持っていく必要がある

○反応する所は様々。ゆったりとしたスケジュールが必要。

いっせいに到着するわけでないので、時間差は必要。

○海外の人がすべて観光したわけでない。

大げさなパーティーは必要ないかも。子どもたちが受け入れするだけで独自性がでるかも。

○ビール・ワイン・食材を探していた。(簡単な所で、まずコンビニは?だった)

なるべく安くていいものの情報をどうですか?

